

## 沈黙の音色

みのむし

人生は

ピアノの鍵盤をポロンと押すように  
軽やかに、呆気なく  
終わってしまうものなのかもしれない

となりの人も

そのまたとなりの人も  
美しい音を奏でたけれど

静寂に余韻を残して

いなくなってしまうた

奏者がいるなら、楽譜があるなら、

そうやって誰かのせいにして

もう弾かなくていいよと

全て止まってしまえばいいのにと

思う自分の未熟さと

変わらぬ現実と

そして、また春が来る

残された時間は短くとも

誰かの心に響く

優しい時を奏でよう

春の息吹のそのように

温かい風を揺らして

沈黙の音色に

耳を澄まして